

中間評価（表紙）

多賀城市歴史的風致維持向上計画(令和3年3月29日認定)
中間評価(令和3年度～令和7年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 特別史跡多賀城跡附寺跡の保存と活用.....	3
II 歴史的建造物の保存と活用.....	4
III 歴史的な景観の保全.....	5
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 多賀城市の歴史や文化に対する親近感の向上.....	6
ii 地域資源を活用した市民文化の創造におけるまちづくりの満足度向上.....	7
iii まちなみの景観満足度向上.....	8
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 多賀城南門復元及び周辺整備事業.....	9
B 中央公園整備事業.....	10
C 多賀城創建1300年記念事業.....	11
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 古代多賀城に見る歴史的風致.....	12
2 塩竈街道に見る歴史的風致.....	13
3 農の営みに見る歴史的風致.....	14
4 貞山運河に見る歴史的風致.....	15
■ 庁内体制シート(様式6).....	16
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	17
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	18

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	古代多賀城に見る歴史的風致	I, II, III	
2	塩竈街道に見る歴史的風致	II, III	
3	農の営みに見る歴史的風致	I, II, III	
4	貞山運河に見る歴史的風致	II, III	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	特別史跡多賀城跡附寺跡の保存と活用		
II	歴史的建造物の保存と活用		
III	歴史的な景観の保全		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	多賀城市の歴史や文化に対する親近感の向上		
ii	地域資源を活用した市民文化の創造におけるまちづくりの満足度向上		
iii	まちなみの景観満足度向上		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	多賀城南門復元及び周辺整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	中央公園整備事業	その他	
C	多賀城創建1300記念事業	その他	

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
方針	I 特別史跡多賀城跡附寺跡の保存と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】史跡の維持管理・環境保全などの保護顕著化活動について、多賀城の歴史文化、景観や観光のシンボルがないため、集客力が弱く、交流人口が伸び悩んでいることが課題となっている。
 【方針】史跡を適正に管理していくとともに多賀城南門の復元事業及び周辺整備を着実に進めていく。また、案内板等の老朽化した施設の修理・修復や新たに設置・整備を実施するとともに多様な主体と連携しながら保護顕著・維持管理に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	多賀城南門復元及び周辺整備事業	多賀城南門の復元	あり	H27～R11
2	市民文化創造推進事業	多賀城創建1300年記念事業の実施	あり	R3～R7
3	特別史跡多賀城跡附寺跡環境整備事業	官衙跡の建物等復元	あり	S45～
4	中央公園整備事業	ガイダンス等の施設整備	あり	H5～R8
5	多賀城跡歴史体験学習事業	毎年小学生による稲作・畑作体験	あり	H23～R12
6	歴史講座	講座を22件開催	あり	H20～R12
7	出前講座	講座を25件開催	あり	H20～R12
8	観光まちづくり推進事業	様々なイベントの開催	あり	R3～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【多賀城南門復元及び周辺整備事業】

特別史跡多賀城跡附第三次保存管理計画に基づき、多賀城創建1300年にあたる令和6年の完成を目指し、古代多賀城を象徴とする多賀城南門の実物大復元整備を進めた。事業を進める上では、関係機関と十分調整を図りながら、来訪者視点でのビューポイントや周辺景観へ配慮しながら事業を進めた。令和4年度に南門の工事が完了し、令和6年度には築地塀及び地形修復工事が完了したが、継続して周辺の植栽等の工事を実施している。



多賀城南門建築
工事完了状況（R7）

【中央公園整備事業】

多賀城跡や多賀城南門の映像配信や情報提供を行う施設として、多賀城跡ガイダンス施設を建設し、多賀城南門の一般開放と合わせて、令和7年4月に開館した。



多賀城跡ガイダンス施設
映像配信の状況（R7）

④ 自己評価

多賀城南門及び多賀城跡ガイダンス施設がオープンしたことにより、特別史跡多賀城跡への来訪者が増え、南門及びガイダンス施設から政庁跡への周遊ルートが完成した。また、景観においても、古代の情景が思い浮かぶような状況となり、地域の活性化にも繋がっている。

⑤ 今後の対応

現在、特別史跡多賀城跡附寺跡保存活用計画を策定中であるが、今後は、本計画を適用しながら、特別史跡多賀城跡附寺跡を整備することが必要となる。また、宮城県においては、今後、多賀城政庁を復元する計画があることから、この計画との調整を図りながら、特別史跡多賀城跡附寺跡の保存と活用を進めていく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅱ 歴史的建造物の保存と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】第1期計画に基づき特別史跡のみならず、歴史的風致を形成している建造物について施設整備や修理等により、建造物そのものの保全が進み、歴史的風致の維持に寄与してきたが、いまだ整備が未了であることや整備した建造物等の観光や伝統文化等の利活用まで至っていないことが課題となっている。

【方針】歴史的風致形成建造物等の指定を実施し、消失の防止や修理・修復などに対する支援策や観光及び伝統文化などと連携を図り、歴史的建造物を利活用と交流人口の増加に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	大路広場整備事業	設置する説明板、道路標示案を検討	あり	R6～R12
2	名勝おくのほそ道の風景地環境整備事業（興井・末の松山）	興井の水質改善を目的とした清掃作業	あり	R3～R12
3	観光案内設備整備改修事業	案内表示等の整備完了済	あり	S45～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【名勝おくのほそ道の風景地環境整備事業（興井・末の松山）】

構成要素となっている松の適正な維持管理を図るうえで、定期的にマツクイムシの防除作業を実施した。興井においては、水質改善を目的として水道水を導水し、地域住民との協働により清掃作業を実施した。また、歴史探訪アプリを機能強化し、市民団体と連携した現地案内を実施し普及啓発に努めた。

【大路広場整備事業】

大路広場整備事業については、古代多賀城における方格地割の基準となる南北大路と東西大路の交差点部を地形復元表示し、併せて古代多賀城の説明板等を設置する方針である。

【観光案内設備整備改修事業】

多賀城創建1300年をキッカケとした観光客受け入れ態勢構築に向け、多賀城駅から多賀城市文化センターまでの歩行者系誘導サイン2基新設。



興井の水質改善を目的とした事業



歴なび多賀城アプリのチラシ

④ 自己評価

名勝おくのほそ道の風景地環境整備事業の興井の清掃活動では、地域住民との協働で実施することにより、住民自らの手で、歴史的風致を維持向上させることの意識を高めることができた。

観光案内設備整備改修事業では、案内表示等の整備が完了し、案内表示により、風致そのものの普及啓発に繋がっている。

⑤ 今後の対応

今後も興井・末の松山を中心とした名勝おくのほそ道の風景地環境整備を計画的に実施し、歴史的風致の維持及び向上を図っていく。また、大路広場に設置予定の説明板の内容や道路標示については、地区の方々に有効活用していただけるように調整を図っていく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅲ歴史的な景観の保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】住民自らが修景に取り組んでいる状況も見られ、歴史的な景観形成に向けた機運は高まっているものの、街道に合う修景には多額の費用を要し、経済的負担が支障となっている。
 【方針】地元住民が自ら景観の保全に積極的に取り組んでいけるよう、住宅や外構修景に対する補助制度の創設や周知に取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的街並み形成支援事業	1件の指定と補助実績	あり	H23～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

住民自らが歴史的な景観の保全に向けた取り組みを進めており、歴史的景観形成に向けた機運が高まっていた一方で、街道に調和した修景整備には多額の費用を要し、住民にとって経済的負担が大きく、思うように整備が進まない状況にあった。

こうした課題を解決するため、住宅や外構等の修景整備に対する補助制度を活用し、住民が主体的に景観形成に取り組みやすい環境整備を進めてきた。制度の運用開始後は、歴史的街並み形成支援事業として第一期計画では22件の実績、第2期計画では5年で1件の指定と補助実績が生まれ、実際に歴史的景観に資する修景が実施されるなど、住民の負担軽減と保全活動の後押しにつながった。

この具体的な補助実施により、地域内に景観修景のモデルケースが示され、他の住民への波及効果が期待できる状況となっている。

また、制度化によって地域住民の景観保全に対する意識がさらに醸成され、歴史的景観の保全と活用に向けた継続的な取り組みの基盤が整ったことが大きな成果である。



改修済み板倉見学会 R5. 11

【板倉等改修のイメージ】



板倉改修前の様子



板倉改修後の様子

④ 自己評価

歴史的風致形成建造物の指定や改修等への補助によって板倉等が本市の歴史的風致を形成する重要なものであることを周知するとともに解体による滅失が回避でき、歴史的風致への維持につながった。一方で、まだ多くの未整備の板倉や経年劣化が見られるため、さらなる保護顕彰を継続していく必要がある。

⑤ 今後の対応

歴史的建造物等と周辺環境の調和を図ることができるよう、南宮・山王地区などを重点的に建物修景や外構修景等について地元住民との議論を重ねていくとともに地域をあげた取り組み、事業実施を図っていく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
効果	i 多賀城市の歴史や文化に対する親近感の向上		

① 効果の概要

多賀城市の歴史や文化を身近に感じている市民の割合が1割増加

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第六次多賀城市総合計画	あり	R3～R12
2	特別史跡多賀城跡附寺跡第3次保存管理計画	あり	H23～R3

③ 効果発現の経緯と成果

令和3年から令和7年にかけて、多賀城市では学校や各種団体を訪問し、歴史講座・出前講座の継続実施や、小学生による稲作・畑作体験などの体験型学習を通じて、多くの市民が歴史文化に触れる機会が着実に増加した。さらに、多賀城南門の復元整備やガイダンス施設の開館、多賀城創建1300年記念事業など、大規模な歴史文化関連事業が展開され、市民が地域の歴史を身近に感じる契機が広がった。特に多賀城創建1300年記念事業では市民参加が促進され、古代多賀城の魅力を再認識する活動が地域の活性化へとつながった。

こうした取り組みの積み重ねにより、市民の歴史文化への興味関心が高まり、まちづくりアンケートでも「歴史や文化を身近に感じる」と回答する割合が1割増加するなど、多賀城市の歴史や文化に対する親近感の向上が成果として得られた。



歴史講座の様子



出前講座の様子



古代米田植えの様子

	人数(人)	割合(%)			
1. 感じている	292	(17.6)	■		
2. やや感じている	607	(36.7)	■		
3. あまり感じていない	547	(33.1)	■		
4. 感じていない	157	(9.5)	■		
5. 無回答	52	(3.1)	■		
合計	1,655	(100.0)	0	20	40%

R3まちづくりアンケート

	人数(人)	割合(%)			
1. 感じている	299	(24.5)	■		
2. やや感じている	490	(40.2)	■		
3. あまり感じていない	315	(25.8)	■		
4. 感じていない	84	(6.9)	■		
5. 無回答	31	(2.5)	■		
合計	1,219	(100.0)	0	20	40%

R7まちづくりアンケート

④ 自己評価

歴史講座・出前講座や稲作・畑作体験などの継続的な実施、多賀城南門復元やガイダンス施設整備等により市民の歴史文化への理解が着実に深まり、多賀城の歴史を身近に感じる機運が高まった。その結果、まちづくりアンケートでは「歴史や文化を身近に感じる」と回答した市民の割合が1割増加するなど、歴史文化に対する親近感が向上する成果が見られた。

⑤ 今後の対応

市民の歴史文化への理解をさらに深めるため、講座の開催回数やテーマの多様化を進めるとともに、学校教育や地域団体との連携をより強化し、学習機会の創設、充実化を図っていく。また、デジタル技術を活用した発信や、市民が企画運営に参画できる仕組みづくりを推進し、幅広い世代が歴史文化に触れられる機会の創出を目指していく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
効果	ii 地域資源を活用した市民文化の創造によるまちづくりの満足度向上		

① 効果の概要

地域資源を活用した市民文化の創造によるまちづくりについて満足度が向上

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第六次多賀城市総合計画	あり	R3～R12
2	特別史跡多賀城跡附寺跡第3次保存管理計画	あり	H23～R3
3	多賀城市都市計画マスタープラン	あり	R6～26
4	名勝おくのほそ道の風景地「壺碑・興井・末の松山」保存活用計画	あり	H28～

③ 効果発現の経緯と成果

令和3年から令和7年にかけて、多賀城市では歴史文化資源を活用した多種多様な文化創造事業が展開され、市民の主体的な文化活動の機会が拡大した。特別史跡多賀城跡附寺跡を中心とした創建1300年記念事業では、ことばのアートプロジェクト、SILK ROAD RUNWAY 2024などのイベントを通じて、新たな文化表現を取り入れ、市民参加型のプログラムを多数実施したことで、地域資源を生かした創造的活動への関心と参加意欲が高まった。こうした取り組みを通じ、市民が地域の魅力を再認識し、まちづくりへの満足度が着実に向上が成果として得られた。



ことばのアートプロジェクト

	人数（人）	割合（％）	%				
1. 満足	28	(1.7)	■				
2. どちらかといえば満足	116	(7.0)	■				
3. 普通	1,107	(66.9)	■	■	■	■	■
4. どちらかといえば不満	179	(10.8)	■	■	■	■	■
5. 不満	24	(1.5)	■	■	■	■	■
6. 無回答	201	(12.1)	■	■	■	■	■
合計	1,655	(100.0)	0	20	40	60	80%

R3まちづくりアンケート

	人数（人）	割合（％）	%				
1. 満足	32	(2.6)	■				
2. どちらかといえば満足	118	(9.7)	■				
3. 普通	843	(69.2)	■	■	■	■	■
4. どちらかといえば不満	97	(8.0)	■	■	■	■	■
5. 不満	20	(1.6)	■	■	■	■	■
6. 無回答	109	(8.9)	■	■	■	■	■
合計	1,219	(100.0)	0	20	40	60	80%

R7まちづくりアンケート

④ 自己評価

多賀城創建1300年記念事業では、特別史跡多賀城跡を基軸とした歴史文化資源とアートを掛け合わせ、これまでにない多様な視点で資源を活用した取り組みを実施した。また、市民参画によって、地域資源の価値を再認識し、創造的な文化活動を地域に根付かせる機運が高まり、多賀城の地域資源を活用した市民によるまちづくりへの満足度が向上した。

⑤ 今後の対応

地域資源を活かした文化創造活動が継続して発展するよう、多様な主体が参加しやすい環境づくりを進める。あわせて、これまでの文化創造事業の成果を積極的に市内外へ発信し、交流の機会を広げることで、地域資源を活用した市民文化の創造によるまちづくりの満足度をさらに高めていく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
効果	iii まちなみの景観満足度向上		

① 効果の概要

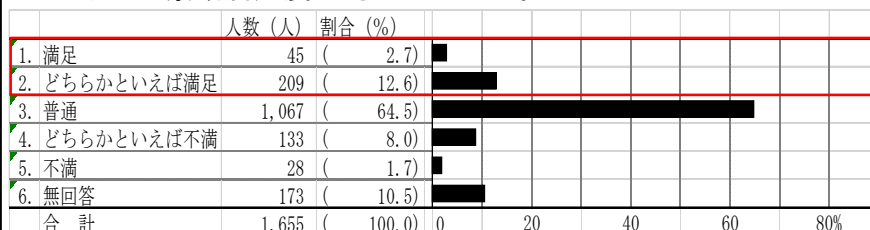
多賀城市のまちなみの景観に対する満足度が向上している

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第六次多賀城市総合計画	あり	R3～R12
2	特別史跡多賀城跡附寺跡第3次保存管理計画	あり	H23～R3
3	多賀城市都市計画マスタープラン	あり	R6～26
4	名勝おくのほそ道の風景地「壺碑・興井・末の松山」保存活用計画	あり	H28～

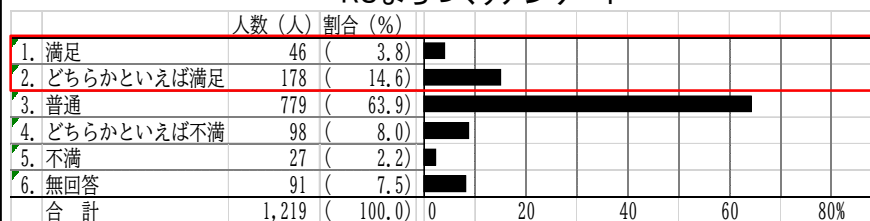
③ 効果発現の経緯と成果

令和3年から令和7年にかけて、多賀城市では歴史的街並み形成支援事業により、住宅・外構等の修景整備を補助し、住民が景観形成に取り組みやすい環境を整備した。これにより実際の修景事例が生まれ、伝統的景観に調和した街並みの改善が進み、地域内で景観形成のモデルが示された。また、南門復元や築地塀整備、ガイダンス施設の整備、名勝「おくのほそ道の風景地」の修景整備など、史跡・名勝一体の景観向上に関わる取り組みが同時期に進展し、地域の景観価値が視覚的に高まった。こうした複合的な施策により、市民が歴史的景観を身近に感じる機会が増え、景観保全への理解と愛着が高まったことで、まちなみの景観満足度が向上している。



興井水質改善清掃作業

R3まちづくりアンケート



板倉改修事業

R7まちづくりアンケート

④ 自己評価

歴史的街並み形成支援事業により、住宅や外構の修景整備が進み、名勝「おくのほそ道の風景地」の環境整備など、史跡・名勝の質的向上が景観満足度の向上につながった。一方で、修景を必要とする建物や環境が依然として多く残されており、継続的な支援と保全活動の促進が引き続き求められる。

⑤ 今後の対応

歴史的景観の核となる南門周辺や名勝の魅力向上を引き続き進めるとともに、住宅や外構の修景整備に対する支援制度を継続し、市民が参画しやすい環境を維持する。また、これまでに生まれた修景事例を周知し、地域全体にモデルとして広げることで、景観形成の機運をさらに高め景観満足度の向上につなげていく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	A 多賀城南門復元及び周辺整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>古代多賀城の象徴として歴史的風致を形成している特別史跡多賀城跡附寺跡において、長年にわたる発掘調査結果及び多賀城南門等復元整備検討委員会の検討結果を踏まえ、多賀城最盛期の奈良時代後半である第Ⅱ期（762～780年）の多賀城南門、南北大路、築地塀、周辺園路等を整備した。</p> <p>また、整備を進める上では、関係機関と十分な調整を図りながら、来訪者視点でのビューポイントや周辺景観へ配慮し整備を進めた。</p> <p>なお、これらと政庁南大路との連続性や周辺園路等の在り方について検討する。</p> <p>【取り組みの経過】</p> <p>第Ⅰ期計画～ 多賀城南門復元事業 令和4年12月 地形修復・築地塀復元に着手 令和5年3月 多賀城南門復元完了 令和7年1月 地形修復・築地塀復元完了 令和8年2月 植栽等工事完了</p>			
		<p>南門・築地塀復元工事の様子</p>	
		<p>南門・築地塀復元工事完了</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>多賀城南門及びその周辺については、令和元年度から5年余りの歳月をかけて整備し、令和7年4月に一般公開に至った。復元された南門は、これまで蓄積された研究成果を基に往時の姿を復元したものであり、地域住民によって守られてきた特別史跡多賀城跡附寺跡の歴史への興味関心が増し、一般公開以降、市内外からの観光を通じて多くの来訪者が訪れており、多賀城跡一帯の交流人口の増加につながり、歴史的風致の向上に大きく寄与している。</p> <p>一方、政庁南大路及び南北大路については、市道が横断していることから連続性がなく、一体的な整備には至っていない状況である。また、来訪者の多くが南門から政庁の間に集中しているため、歴史的景観や安全な見学環境を整えること、更なる特別史跡多賀城跡附寺跡への歴史認識が一層深まるような周遊性を向上させることが課題である。</p>			
外部有識者名	東北大学学術資源研究公開センター 東北大学総合学術博物館 教授 藤澤 敦		
外部評価実施日	令和8年2月20日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>多賀城跡南門の復元整備にあたっては、発掘調査成果に基づく厳密な学問的検討を踏まえ、往時の材料・工法まで復元して整備することで、本物に準じた価値を生み出すことに成功したと評価できる。このことが来訪者の増加という効果を生み、地元の住民の誇りにもつながっている。この古代の歴史に触れる、特別な体験ができる場所という特性を活かし、多賀城跡への理解を深め、誇りと愛着を深める、多様な取り組みを展開できる環境が整ってきたと評価できる。一方、政庁へ至る大路が市道で分断されている現状は、安全な見学環境という点で課題となっており、抜本的な対策が望まれる。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>南門を中心に、歴史理解を深める体験型事業や案内機能の充実を図るとともに、大路を分断する市道については、多賀城跡全体の活用も視野に入れ、宮城県で進めている政庁地区等の整備と連携し、史跡全体の一体感を高める取り組みを取り入れていくように検討する。</p>			

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	B 中央公園整備事業	種別	その他

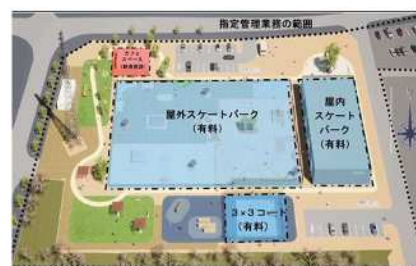
① 取り組み概要

特別史跡を区域に含む本市最大の都市公園（総合公園）は、多賀城跡の魅力をより一層向上させる施設整備等を行うことによる来訪者利便性向上のため、ガイダンス施設、トイレ、駐車場等をの整備を実施した。

また、県内初の官民連携手法の公募設置管理制度（Park-PFI）及び指定管理者制度を活用し、民間事業者が有するビジネス的な視点やノウハウを活かし、質の高い運営管理を行うことにより、更なる公園の魅力向上、にぎわいの創出及び交流人口の増加を促すべく、公園施設のインフラ整備や駐車場整備や屋内外併設のスケートパークを中心とし、遊具、飲食、物販施設等の整備を実施した。



トイレ及びガイダンス施設整備



中央公園スケートパーク

② 自己評価

多賀城跡ガイダンス施設は、大型のLEDビジョン等を設置し、特別史跡多賀城跡を視覚的に体感することができるデジタルミュージアムとして、令和7年4月にオープンした。

施設では、国府であった多賀城の歴史や当時の様子が映像などを中心に学ぶことができ、入館者は令和7年12月末時点で4万7千人を超え、市内外に特別史跡多賀城跡について広く周知されたものと認識している。

また、施設南側に新たに整備したスケートパークエリアと多賀城跡の歴史とが融合した魅力ある中央公園を目指し、各種媒体を活用した情報発信や観光との連携強化を図りながら、多くの方々を足を運んでいただけるよう取り組んでいきたい。

外部有識者名	東北大学学術資源研究公開センター 東北大学総合学術博物館 教授 藤澤 敦
外部評価実施日	令和8年2月20日

③ 有識者コメント

復元された多賀城南門に隣接する区域に駐車場を整備したことにより、直接南門方面に自家用車を利用して来訪する方々の利便性の向上と、来訪者の増加の上で、大きな効果があったと評価できる。トイレやガイダンス施設を、あわせて整備したことは、相乗的な効果が期待できる。またスケートパーク整備によって、これまで多賀城跡に関心を持っていなかった、従来とは異なる年齢層や他地域からの訪問者を期待できる。このような来訪者を、多賀城跡に誘引し、その魅力を体感してもらうための取り組みを進めることが課題である。

④ 今後の対応

南門周辺施設を活かした来訪者受入環境の向上やガイダンス施設を活用した歴史的魅力をわかりやすく伝える工夫を考えていきたい。また、スケートパーク利用者など新たな層を史跡に誘導する仕組みづくりの検討や多賀城跡全体の回遊性を高め、魅力を体感できる導線づくり等を考えていきたい。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
取り組み	C 多賀城創建1300年記念事業	種別	その他
<p>① 取り組み概要</p> <p>神亀元年(724年)に創建され陸奥国府が置かれるなど、古代東北の政治・文化の中心として繁栄した「多賀城」が令和6年(2024年)に創建1300年という大きな節目を迎えることから、市を挙げて多賀城創建1300年を祝うため、多賀城創建千三百年記念式典をはじめ、多種多彩な文化プログラムを実施。本市固有の歴史文化資源にアートを掛け合わせることで新たな付加価値を生み出し、次代に継ぐ市民の誇りとして磨き上げるとともに、本市の魅力とシビックプライドを醸成することで、市民自ら創造的な活動を行う機運を高め、交流人口の増加や地域経済の活性化を図った。 【取り組み事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多賀城創建千三百年記念式典 ・東北おまつりプロジェクト(雨天予報により中止) ・新時代の創作オペラ「いしぶみの譜～多賀城創世記～」 ・多賀城 Cinema Complex with なら国際映画祭 ・ことばのアートプロジェクト ・SILK ROAD RUNWAY 2024 など 			
		 <p>多賀城創建千三百年記念式典</p>	 <p>SILK ROAD RUNWAY 2024</p>
<p>② 自己評価</p> <p>多賀城創建1300年記念事業では、特別史跡多賀城跡を基軸とした歴史文化資源とアートを掛け合わせ、これまでにない多様な視点で資源を活用した取り組みを展開。メインイベントである記念式典では、市民による古代官人衣装の行列や雅楽・コンテンポラリーダンス等の融合による舞を通じ、古代東北の中心地として栄えた多賀城の創建を祝う儀式現代的に表現した。また、政庁南大路をランウェイに見立てた「SILK ROAD RUNWAY 2024」など多彩な文化プログラムを展開。天平衣装や古代兵士の装備、食膳具なども発掘成果や文献に基づき復元し、来訪者が古代を体感できるコンテンツの造成を進めた。こうした数々の取組を市民とともに進めるため「多賀城創建1300年サポーター制度」を運用し、令和6年度末までに697名が登録し、市民の参画とシビックプライドの醸成に寄与した。まちづくりアンケートでは「チャレンジできるまち」「多賀城らしさを感じる」と回答した割合が令和2年度比でそれぞれ8.9%、6.2%上昇し、記念事業及び関連事業の総参加者数は539,061人に達した。これらの取組を通して歴史文化資源の魅力をも市民とともに再認識し、未来への継承に向けた理解が深まるとともに、多賀城らしい歴史的風致の向上につながった。</p>			
外部有識者名	東北大学学術資源研究公開センター 東北大学総合学術博物館 教授 藤澤 敦		
外部評価実施日	令和8年2月20日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>多賀城を活用しつつ次世代に守り伝えていくためには、地元の住民が多賀城跡への誇りと愛着をもって参画することが、とりわけ重要である。取り組まれた事業のほとんどが、市民参加型で企画されていることは、このような機運を醸成するために有効であると評価できる。記念事業だけの一過性のものにならないよう、継続した取り組みとして展開していくことが望まれる。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>有識者から頂戴したご意見のとおり多賀城跡等への誇りや愛着を育む取り組みが一過性にならないよう、多賀城創建1300年記念事業を基軸とした「市民文化創造推進事業」を後継事業とし、実施していくとともに「多賀城創建1300年サポーター」は「多賀城みらい創造クルー」と名称を改め、多賀城跡を中心に造成した宮城オルレ多賀城コースの維持管理をはじめ、市民が主体的に歴史文化資源を活用した事業に参画できる仕組みを継続し、市民が企画段階から関わるという一歩進んだ事業を展開・調整していく。</p>			

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	1 古代多賀城に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 特別史跡多賀城跡附寺跡の保全と活用 II 歴史的建造物の保存と活用 III 歴史的な景観の保全		

① 歴史的風致の概要

神亀元年（724）に創建された多賀城は、江戸時代、多賀城碑の発見により古代の文献に記載された遺跡であることがわかって以来、その歴史的な重要性を示す特別史跡多賀城跡および関連する歴史的建造物等が広く残されており、地元の人々を中心に、守り伝えられてきた。また、歌枕の地としても多くの貴族たちが詠み親しまれ、今もなお保護顕彰が続けられており、多くの人々を魅了している。こうした特別史跡を中心とした歴史的空間は、周辺の自然地形や農的営みと融合して独自の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

古代多賀城に見る歴史的風致は、特別史跡多賀城跡附寺跡および関連する歴史的建造物が、周辺の自然地形や農的営みと調和して形成されてきたものであり、地元住民による保護顕彰が継続されてきた。令和3年から令和7年では、多賀城南門や築地堀の復元整備が進み、当時の歴史的空間の復原性が高まり、来訪者の歴史認識の向上に寄与した。

また、案内板等の老朽施設修繕、園路整備、歴史講座・体験事業などを継続実施し、市民の歴史文化への理解と親近感が高まった。

さらに、史跡の維持管理における担い手不足が課題となる中、多様な関係機関との連携を図ることで、持続可能な保全体制の構築に向けた環境整備が進展した。

これらの取り組みにより、古代多賀城を中心とした歴史的風致は良好に維持され、その価値の発信と市民参加の広がりによって、歴史的風致の維持向上に繋がる成果が得られた。



南門復元工事の様子



南門復元工事の様子

③ 自己評価

多賀城南門及びその周辺整備が完了し、令和7年4月に一般公開に至った。復元された南門は、往時の姿を復元したものであり、古代多賀城に見る歴史的風致を形成している。南門の復元は、地域住民によって守られてきた特別史跡多賀城跡附寺跡の歴史への興味関心を増やし、市内外からの観光を通じて多くの来訪者が訪れ、交流人口の増加につながった。



復元された多賀城南門

④ 今後の対応

多賀城南門復元と周辺整備の完了から、特別史跡多賀城跡附寺跡と周辺の環境との調和や利活用を図るとともに、政庁跡で行われていた地元住民による保護顕彰が南門でも実施されるよう、地域をあげて歴史的風致の維持向上を図ることとする。

また、興井や末の松山等の景観保全についても継続して実施し、歌枕の地という名勝を荒廃させないよう整備を進めていく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	2 塩竈街道に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的建造物の保存と活用 Ⅲ 歴史的な景観の保全		

① 歴史的風致の概要

塩竈街道を舞台に繰り上げられる陸奥総社宮の祭礼が今日まで受け継がれているとともに、塩竈街道沿いには江戸時代以来の名所旧跡である建造物や社寺、集落景観が点在し、周囲の自然地形と調和した落ち着いたある佇まいと歴史を感じる風景を今に伝えています。これらの景観は、多賀城と塩竈を結ぶ歴史的関係を物語る貴重な地域資源であり、地域の生活文化と深く結びついた風致を形成している。

こうした沿道の連続した景観要素は、多賀城市が有する歴史的風致の中でも、特に生活文化と交通の歴史が融合した特徴的な価値を示している。

② 維持向上の経緯と成果

塩竈街道では、陸奥総社宮の祭礼が今日まで受け継がれ、沿道には江戸時代以来の建造物や社寺、集落景観が連続して残り、自然地形と調和した落ち着いた風致が形成されている。令和3年から令和7年においては、地域住民が景観保全に主体的に取り組む機運が高まる一方、第1期計画から修景整備に要する費用負担が課題となっているが、住宅や外構等の修景整備への補助制度の活用を継続し、整備を進めやすい環境を整えた。その結果、歴史的街並み形成支援事業として指定と補助実績が生まれ、沿道景観の保全・修景が具体的に進展した。また、第1期計画時の説明板の設置により、塩竈街道を通行する訪問者は名所旧跡等に目を止めるようになり、観光資源の価値づけに繋がっている。

これにより、街道景観のモデルが示され、他地域への波及が期待できる状況が生まれた。また、制度運用により住民の景観保全意識が醸成され、伝統的な沿道景観の維持に向けた取組の期待が高まった。



多賀神社



貴船神社



奏社宮道標

③ 自己評価

塩竈街道においては、第1期計画より継続し、歴史的街並み形成支援事業により、住宅や外構の修景整備が進み、街道沿いの歴史的景観の維持・改善が図られた。補助制度の活用は住民の経済的負担が軽減され、景観形成に主体的に取り組む環境が整い、沿道修景のモデルとなる事例も生まれた。その結果、住民の景観保全への意識が醸成され、沿道景観の継承に向けた動きが着実に広がった。一方で、引き続き修景を必要とする建物も多く、継続的な支援と意識向上の取組みが求められる。

④ 今後の対応

塩竈街道沿いの歴史的景観の連続性を確保するため、修景整備への支援を継続し、住民が取り組みやすい制度運用を図る。また、修景の好事例を積極的に発信し、地域全体への波及効果を高めるとともに、街道の歴史や文化を学ぶ機会を拡充し、住民の理解促進を図る。さらに、関係機関との連携を強化し、街道の保全・活用に向けた総合的な取り組みを進めることで、歴史的風致の維持向上を推進していく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	3 農の営みに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 特別史跡多賀城跡附寺跡の保全と活用 II 歴史的建造物の保存と活用 III 歴史的な景観の保全		

① 歴史的風致の概要

農業を営む集落では、江戸時代以来、耕作のための加瀬沼の水利用が続けられ、また五穀農禱を祈る祭りが今日まで受け継がれています。集落内の農村保存庫である板倉などの歴史的建造物がこれまでの活動と相まって、地域の風情を醸し出している。現代においても、地元住民が農作業を通じて土地との関わりを保ち続けており、地域の歴史的な理解と文化継承に資する風致として重要な役割を果たしている。

② 維持向上の経緯と成果

農業集落では、江戸時代以来続く加瀬沼の水利用や五穀豊穡を祈る祭りが現在も受け継がれ、板倉などの歴史的建造物が当時の営みを示す景観要素として残されている。

令和3年から令和7年では、住民が農作業を通じて土地との関わりが継続され、歴史的建造物である板倉の老朽化が課題となる中、改修への補助制度を活用することで、保存・修景を進めやすい環境づくりが進展した。修景実績は、地域の景観保全意識を高める契機となり、農の営みに根ざした歴史的風致の継承に寄与した。

評価対象年度内の板倉改修件数は、令和3年度の1件となっている。

これらの取り組みにより、農業と集落景観が調和する多賀城らしい風致の維持が図られ、次世代への継承につながる基盤が強化された。



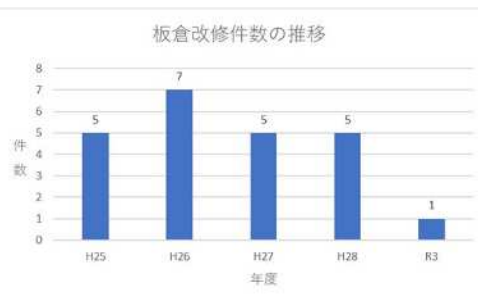
板倉改修前の様子 R3. 4



板倉改修後の様子 R4. 2

③ 自己評価

板倉等が本市における農の営みに見る歴史的風致を形成する重要な建造物であることを周知するとともに第1期計画に引き続き、補助制度を活用し改修が進んだことで、農村景観の保存に一定の成果が見られた。一方で、令和3年度以降、板倉等の整備実績がないことからさらなる保存奨励を進めていく必要がある。



板倉改修件数の推移

④ 今後の対応

農の営みに見る歴史的風致の継承を図るため、板倉等の歴史的建造物に対する支援を継続し、保存・修景をより促進する。また、若い世代の関わりを広げ、歴史文化の価値を広く発信し、農の営みと歴史的風致の一体的な魅力を高め、地域全体の保存意識の向上と保全体制の確立を目指していく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	4 貞山運河に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的建造物の保存と活用 Ⅲ 歴史的な景観の保全		

① 歴史的風致の概要

米輸送のために開削された貞山運河では、今日でも物資輸送等に利用され、船が往来する風景が江戸時代以来続いている。また、明治時代に始められた灯籠流しが今日でも続けられており、多くの灯籠が水面に映る姿は夏の終わりを告げる恒例行事となっている。このほか現在も、運河を活かした様々な地域活動や環境保全の取り組みが行われており、水辺景観と生活空間が調和した独自の歴史的風致が継承されている。このように貞山運河は、多賀城市における歴史・産業・自然が交差する象徴的な景観要素として、地域の歴史的風致を特徴づける重要な存在となっている。

② 維持向上の経緯と成果

貞山運河は、江戸期以来の物資輸送路として活用され、今日も船が往来する水辺景観が継承されている。また、明治期に始まった灯籠流しが現在も続けられ、地域文化として定着している。東日本大震災では石積護岸等が甚大な被害を受けたため、『貞山運河再生・復興ビジョン』に基づき復旧・復興整備が進められ、震災前の景観の回復と安全性向上が図られてきた。

令和3年から令和7年では、この復興整備に加え、地域活動・環境保全活動が継続され、運河と生活空間が調和する独自の風致の維持に寄与した。

これらの取り組みにより、歴史・産業・自然が交差する象徴的な景観要素としての価値が改めて認識され、地域の歴史的風致の継承に向けた基盤が強化された。



震災直後の護岸の様子



護岸修復完成後の様子

③ 自己評価

復興整備に加え、地域活動や環境保全が継続され、運河の価値に対する住民の理解も深まった。このことから、貞山運河に見る歴史的風致は概ね良好に維持されている。

④ 今後の対応

復旧後の貞山運河の景観が長期的に維持されるよう、護岸等の適切な保全管理を継続し、関係機関や各種団体との連携を強化し、運河の魅力向上につながる取り組みを推進する。

また、灯籠流しなどの伝統的行事の継続支援や、水辺景観を活かした交流促進策を検討し、歴史・産業・自然が調和した貞山運河の風致価値をより広く発信することで歴史的風致の継承を図る。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
------	------	--------	--------

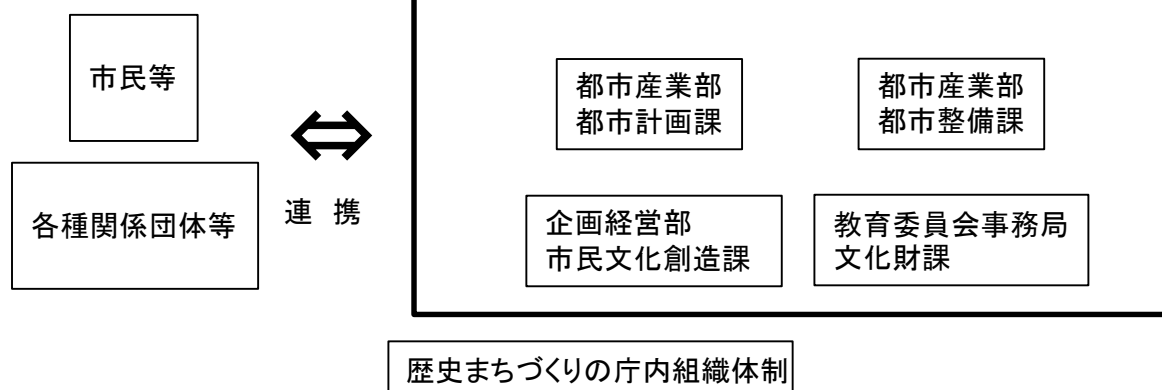
① 庁内組織の体制・変化

計画の推進にあたっては、多賀城市歴史的風致維持向上協議会や文化財保護委員会とも協議しながら、計画及び事業の変更などについて検討している。

多賀城市歴史的風致維持向上協議会は毎年度末に開催し、その都度、事業の進行管理や歴史的風致の維持向上について確認を行う。



令和7年度歴史的風致維持向上協議会の様子



② 庁内の意見・評価

【庁内からの意見・評価】

中間評価シート作成のため、歴史的風致維持向上計画を推進する関係部署からみた、計画の進捗状況や歴史的風致維持向上協議会の在り方について意見を聴取した。

主な意見を以下に整理する。

（都市産業部都市計画課）

令和3年度からの5年間で達成した各事業の成果と新たな課題を整理し、より一層、歴史的風致の維持向上を目指し、住民参画や歴史に触れる・体験できる取組みを展開していけるよう庁内関係部署のみならず地域住民や各種団体等との連携を強化し令和8年度からの取組みを図るべきである。

（教育委員会事務局文化財課）

多賀城南門復元及び周辺整備事業や名勝おくのほそ道の風景地環境整備事業については、順調に事業が進み、今後はこれら文化財の積極的な活用を進めていく。また、歴史的風致維持向上協議会の在り方については、学識経験者や区長等の地域住民を代表する方から、歴史的景観の保全や活用など歴史的風致を維持向上させるための意見を頂ける貴重な機会となっており、今後の歴史まちづくりを進めるための指標となっている。

（企画経営部市民文化創造課）

令和8年度から、多賀城創建1300年を契機として取り組んできた本市固有の歴史文化資源に新たな価値を創出し、シビックプライドをなお一層高めていくこと、交流人口の増加等に視座を置いた文化観光振興によるまちづくりを積極的に進めていくため、「市民文化創造課」を「文化観光課」に改編し、市民文化創推進事業（旧：多賀城創建1300年記念事業）及び観光まちづくり推進事業を推進していく。

上記の意見を踏まえ、今後も庁内体制を維持し、必要に応じて関係部署と調整を図り、歴史的風致維持向上計画を推進していく。

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 住民意見</p> <p>【協議会委員（市民枠）からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政庁南大路を分断する市道について、今後さらに来訪者が多くなれば交通事故等が懸念される、また、大路復元整備を進めていく上で景観の観点からも何とかしてほしい。 ・ハード整備だけでなく案内ガイドや説明板といったソフト面の機能充実を高めてほしい。 ・市民文化創造事業、中央公園整備事業といった大きい事業についてどれぐらいの予算措置を講じているのか。 ・板倉等の保存や修景整備に係る費用負担軽減をお願いしたい。 ・行政が主体となって歴史的文化財の保護継承や維持管理に対する啓発をお願いしたい。 			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>令和8年3月10日に開催した令和7年度多賀城市歴史的風致維持向上協議会では、中間評価シート（協議会におけるコメントを除く）を提出し、事業の総括について議論していただいた。その結果、以下のような意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業を計画通り、理想的に進めてきていると感じる。一方で、それらの事業が生んだ具体的な波及効果について教えてほしい。 <p>→（事務局回答）南門の復元等により来訪者が大きく増加している。多賀城跡ガイダンス施設の入館者数については昨年4月25日にオープンしてから年末時点で約5万1千人。昨年11月に創設した宮城オルレ多賀城コースについては2月時点で約2千人。市内外問わず海外からの来訪者も多い。中央公園整備の完了に伴いさらなる波及効果が期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政庁南大路を分断する市道について今後さらに来訪者が多くなれば交通事故等が懸念されるため何とかしてほしい。 ・若者や子どもを巻き込んだ事業が多くあり、多賀城市の強みだと感じるため評価としてもう少し盛込んでどうか。 ・ハード整備及びソフト整備と多くの事業があるため優先順位をつけ実施し一過性のもにならないようにお願いしたい。 			

市町村名	多賀城市	評価対象年度	R3～R7年
<p>① 全体の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別史跡や歴史的建造物等の維持管理・保全活動において高齢化や人口減少による担い手不足が課題となっている。 2. 歴史的風致を形成している建造物について施設整備や修理等により、建造物そのものの保全が進んでいるが整備した建造物等の観光や伝統文化等の利活用まで至っていないことが課題となっている。 3. 歴史的街並みを形成する地域や塩竈街道沿いの景観形成にかかる費用負担の大きさによる住民取組みの修景整備の停滞が課題となっている。 4. 歴史的資源を活かした市民参加・学習機会の不足、形骸化が課題となっている。 			
<p>② 今後の対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 維持管理・保全活動を主とする各種団体や地域住民、若年層を対象とした継承支援の強化をはかりるとともに多賀城の歴史文化に対する理解と参加機会を創出し、担い手不足の解消に努めていく。 2. 歴史的建造物の修繕・修景に対する支援だけでなく、保存後の活用に対する支援や情報提供を行い活用を促す。 3. 補助支援等の創設による費用負担軽減や修景の好事例を積極的に発信し、地域全体への波及効果を高めるとともに、街道の歴史や文化を学ぶ機会を拡充し、住民の理解促進を図る。 4. 歴史文化への理解を深めるため、テーマの多様化を進めるとともに、関係機関や各種団体との連携をより強化し、学校教育や地域学習機会の増設、充実化を図る。 			